

10カ国の防災・減災・災害復興担当職員を迎えて！

～JICA研修 インフラ施設（河川・道路・港湾）災害対策とマネジメント～

R7.11.18

独立行政法人 国際協力機構（JICA）が実施するプログラムの一環として、マレーシアはじめ10カ国の研修員が技術者の能力向上を目的に、六甲砂防事務所に来訪されました。

講義では【六甲山系での過去の土砂災害と砂防事業の取り組み】について説明を行い、土石流模型実験では、流れてくる土砂を砂防堰堤が捕捉する様子をご覧いただきました。さらに現地視察では、鋼製枠堰堤である【荒神山西砂防堰堤（令和5年3月竣工）】を案内し、土石流や砂防堰堤の設計などについて学んでいただきました。

概要

日 時：令和7年10月28日（火）13：30～16：30

場 所：（講義）六甲砂防事務所／（現地視察）荒神山西砂防堰堤等

主 催：独立行政法人 国際協力機構（JICA）

参加者数：10名（マレーシア・東ティモール・パキスタン・ヨルダン・トルコ・南アフリカ共和国・モーリシャス・コンゴ民主共和国・南スーダン・ナイジェリア）

【研修員との質疑応答】

Q：透過型の鋼製スリットの間隔が大きい気がするが、土石流を捕捉出来るのか？

A：土砂粒径を事前に調査し、スリットの間隔を決定しています。スリット間隔より細かい土砂は堰堤下流側へ常時流れる設計です。

Q：あらかじめ、どれだけの土石流が流れてくるか予測し設計しているのか？

A：設計段階において、溪流の土砂量、粒径などを調査し、砂防堰堤のタイプや大きさを決定しています。

Q：斜面对策のコンクリート法枠工で法枠の隙間に樹木を残すと、樹木が大きくなりコンクリートに影響があると思うが大丈夫か？

A：影響がありそうな大きな樹木がある場合は伐採しますが、影響がない程度の樹木は生かしておきます。



講義の様子



土石流模型実験の様子



荒神山西砂防堰堤視察の様子



記念撮影

【お問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所 調査課

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15 TEL：078-851-0535

六甲砂防事務所ホームページ <https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/>